

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ		
所在地	千葉県緑区土気町1500番1 (電話) 043-205-7222		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	5月28日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り ストレート屋根 平屋建て 1階建ての1階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費25,000円理美容・おむつ代等実費	
敷金	無	有りの場合償却の有無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無			
食材料費	朝食	550 円	昼食	580 円
	夕食	730 円	おやつ	別途
	または1日当たり		1,860円	

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂の上外科、大網白里町立国保大網病院、都賀デンタルクリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR土気駅から徒歩10分の便利な場所にある。広い庭をL字型に囲むように、2ユニットが配置された明るいホームで、広大な庭の真ん中にはホームの名前の由来ともなる1本の木が植えられ、周りにはベンチを置いている。この庭の一部には畑もあり、一年中、野菜が収穫でき、食卓を飾る一品となる。ホーム長の「入居者の意思を最も大事にしたい」という考えが職員に浸透しており、ケアに活かされている。また、ホームの主治医は、管理者自ら近隣の医院をまわって納得の行く協力医を見つけたことから、いつでも、信頼できる医師に相談できる体制ができているのは心強い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となっていた地域とのつきあいについては、ホームに出入りする人を通じて、広がり始めている。市町村との連携についても、気軽に相談できる関係ができつつある。運営に関する家族等意見の反映は担当職員がまめに家族と連絡をとることで、意見が出易くなってきた。運営推進会議を活かした取り組み、職員を育てる取り組み、災害対策については引き続き、課題として取り組むことが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で、分からない項目については管理者に聞きながら自己評価に取り組み、それをもとに管理者とサブリーダーがまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	その時々によって違いはあるが、地域包括支援センター職員、民生委員、近隣住民、入居者家族等の参加を得て、年3回~4回開催している。前回は家族とホーム側だけの出席であった。運営推進会議の持つ意味からいっても、地域から様々な立場の人の参加が不可欠と思われるので、引き続き参加を得る努力が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族がホームを訪問した際には、積極的に声をかけ、意見が言い易い雰囲気心を心がけている。また、各入居者には担当職員がいて、1週間に1度は電話で家族と話すようにしている。意見が出た場合は職員会議で話し合い、できる限り対応するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームに出入りする人等のつながりで、地域の輪が広がりつつあり、芋掘りや野菜の収穫祭にも参加した。また、近隣の中学校とは以前から体験学習を通じて交流があり、クリスマスにはブラスバンドや手品で参加してくれた。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほかに、「ホーム長の方針」とホームとしての「入居者の意思を大事にする」というモットーがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開かれる勉強会でモットーを共有し、理念が浸透するようにしている。また、毎月理念にそった目標を職員全員で決めて、実践する努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	別地域の自治会の芋掘りや、野菜の収穫祭に参加したり、近くの中学校とは体験学習を通じて交流があり、クリスマスにはブラスバンドや手品を披露してくれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価は職員全員に回覧し、できるところから改善した。今回の自己評価も職員全員が取り組み、管理者とサブリーダーがまとめた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的ではないが、年3回～4回開催している。出席者はその会によって違うが、地域包括センター職員、民生委員、近隣住民、入居者家族等で、議題はホームの現状、今後の課題、家族の意見等であるが、ホームの紹介だけは、毎回入れるようにしている。しかし、その時々で家族の参加がない、あるいは家族だけの参加ということがある。		地域に開かれたサービスとしての質の確保や、地域との交流促進というのが運営推進会議の目的であるので、家族以外に市や地域の参加が毎回得られるように、工夫することが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「木かげ新聞」というホーム便りを郵送している。また、気軽に相談できる関係性もできつつある。今後、さらに行き来する機会が増えると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書とともに、入居者の様子が分かる手紙と写真を家族に送っている。また、週に1度は担当職員が電話をして様子を伝えている。昨年6月から写真入りのホームの新聞を発行している。何か入居者に変化があれば、その都度家族には必ず報告して理解と信頼関係の醸成に努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、積極的に話を聞くようにしている。また、担当職員が週1回家族と話している中で、その中から意見等を引き出し、出た意見はできるだけ運営に反映するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚や出産等で辞める職員がいた時には、入居者に十分に説明をして、理解を得た。また、休憩時間がきちんと取れるように配慮する等、職員が働きやすい環境をつくるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会は、研修の内容によっては数回に分けて実施し、必ず全職員が出られるようにしている。また、外部研修は案内を掲示し、希望者が参加できるようにシフトを調整している。しかし、段階に応じての継続的な研修はまだ実施されていない。		職員一人ひとりの段階に応じて必要な研修が受講できるよう、計画的、継続的な計画を立てることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会、認知症の人を支援する専門職千葉連絡会等に参加しており、職員も含め、交流を持っている。また、他施設からの見学も多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間の体験入居が可能で、少しずつ慣れてもらえるよう、体験入居中や入居後も家族に泊まってもらうよう勧めている。また、他の入居者と馴染めるよう、職員が間に入って話を取り持つ等の支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農家出身の入居者に畑仕事を教わったり、編み物を教えてくれる入居者もいる。また、職員と入居者が一緒に作業をしながら、笑う場面も多く見受けられた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は、ホームとして最も重視している項目であり、センター方式に改良を加えた独自の様式でアセスメントを行っている。日常的には、各入居者の担当職員が中心となるが他のスタッフも加わってケースを記録し、言葉にできない人の思いも共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者それぞれの担当職員が、チームケアの主体的役割を果たしている。ケース会議には事前に他のスタッフからアンケートをとり、話し合っている。家族の意向はつかみにくいが、ケース会議への参加を得て家族の思いを汲んだ、より質の高い介護を今年の目標にしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回はケース会議を開催し、少なくとも6ヶ月に1回は家族の意見等も反映した上で介護計画の見直しを行っている。ケース会議は勤務時間を調整して開催され、議事録として残している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームのかかりつけ医への通院支援を実施しているほか、特別な外出支援など個別の要望についても本人・家族の意向に沿うよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が近隣の病院をまわり探した結果、現在の認知症専門医がホームのかかりつけ医となり、緊密な協力のもと親身に診療や相談に乗ってもらっている。おおむね月1回の受診や体調不良時の通院は一般外来患者と同じ要領で受診している。受診結果はその都度家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定に入退きの基準を定め、家族にも納得を得るようにしている。常時医療の必要が限界の目安となるため、主治医にかかわってもらい状況の推移にともなう家族への説明や退去後の入院先の調整などの支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症による日常的なミスには、さりげなく対応するようにしている。“ダメ、座ってて”など拒否的、指示的言動は避けるように指導している。個人情報にかかわる記録等は管理室保管としている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は決めていない。1日の基本的な流れはあるが、入居者はマイペースで居場所・役割を持ちつつ過ごしている。そんな中で個人的な要望(ジャガイモを植えるなど)に他の入居者も一緒に加わるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、盛り付け、配膳、片付け、皿洗い、テーブル拭きなど自分のできることを進んでやってもらっている。献立、食材仕入れなど給食委託をしているが、庭の畑で取れた野菜で一品増やすこともある。食器や席など個別の対応がなされており、職員も一緒に会話を楽しみながら食事を取り、和やかな雰囲気であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14:00～20:00まで入浴可能で、個々のタイミングに併せて入浴している。入浴拒否の人には清拭にして、様子を見るなどして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、掃除、洗濯、食事など、それぞれができる役割を持ち生活している。レクリエーションとしては、囲碁、マーじゃん、ふうせんバレー、お手玉などに人気があり、職員がさりげなくきっかけを作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に農協とコンビニがあり、外出したい人には本人・家族の意向を踏まえて個別に対応している。コンビニや近所の人々の理解も得られつつある。		事業所前の道路が車の往来が頻繁なこともあって散歩も中庭のみとなりがちのようである。今後は、気軽に散歩に行くなど日常的な外出支援への対応が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は基本的に鍵をかけていない。それを可能にしているのは、スタッフが入居者の所在や行動に気配りし、各入居者の思いや行動パターンを把握している為である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	最近たまたま近所に火災があった折には、地域住民の協力でスムーズに避難できた。年2回ほど避難訓練を実施しているが、消防署の立会いない状況である。		火災、水害、震災に際して消防、警察、地域住民組織との関わりが重要であるので、地域防災の現状を把握し、訓練参加や防災計画への組み入れの働きかけを進めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとに、飲んだドリンクの種類と量を記録するとともに、食事からとる水分量も考慮し十分な確保を図っている。食事や食事記録から状況を把握するとともに、特に糖尿病の人には野菜を多くするなどの配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どちらのユニットとも、ゆったりした雰囲気のリビングから、広い芝生とシンボルの樹がある中庭が開けており自由に出入りもできる。廊下やトイレなども清潔に維持されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具など持ち込むことを勧めている。趣味の作品を飾ったり、それぞれ個性的な部屋になっている。		